

水産業改良普及事業並びに漁村青 壮年実践活動促進事業経過報告

加藤孝作，市村勇二，佐藤実，木梨清

I 水産業改良普及事業

この事業は水産庁通達の昭和34年度水産業改良普及事業実施要領の方針に基づいて，専門技術員が関係の試験研究機関と密接な連絡をとりながら調査研究し，北茨城市と日立市に設置された沿岸漁業改良普及員の活動を指導援助するとともに，次の技術指導を行なった。

1 水産増殖専門技術員

- (1) 海況と浅海漁場に生棲するスズキ及びアワビ，ワカメとの関連性
- (2) イワシ及びブリ類の回遊と海洋観測の関係

2 水産業機械専門技術員

本県における20馬力未満の動力漁船は80%ディーゼル化しているため，本機関を重点に次の講義実技の指導及び機械の検診を実施した。

- (1) 機械に対する一般
- (2) 機関取扱上の注意
- (3) 故障個所の発見法
- (4) 機関据付と軸心の出し方
- (5) 機械の分解及び長期格納に対する注意

最近魚群探知機，超短波無線電話機などの電気を必要とする科学機器が沿岸漁船に装備されたので，バッテリーの取扱いに関するパンフレットを作成指導したが，今後これらの機器に対する漁民の関心が集まるものと思われる。

II 漁村青壮年実践活動促進事業

この事業は水産庁通達の昭和34年度漁村青壮年実践活動促進事業実施要領の基本方針である漁村青壮年の経営及び技術の改善向上を目的とした自主的実践活動を促進助長し，水産業の振興を図ることを目的に，関係市町村（北茨城市，日立市，那珂湊市，大洗町，波崎町），茨城県漁連及び茨城県漁業研究協議会が連携し，次の事業を実施した。

1 県青壮年団体協議会開催事業

- (1) オ4回水産業改良普及研究発表大会

34年12月18日水戸市北三の丸水産農林会館会議室で発表者10名により，漁業技術を主とした研究グループの活動成果が発表された。審査の結果最優秀賞には，大津漁業研究会石川俊男の「エ

ビ曳漁具改良の研究「優秀賞には、久慈浜丸小漁業研究会三代秀雄、稲川正行の「経営の合理化と漁家経済における機関士会活動について」と久慈町漁業研究会星野昇の「マデを使用するタイ一本釣漁法の研究」がそれぞれ表彰された。

また研究グループ活動が顕著であつた久慈浜丸小漁業研究会が、研究協議会長から表彰された。

(2) 全国大会

35年2月24日～27日 東京都墨林省で開催された第6回全国大会には県代表として、大津漁業研究会石川俊男が前述の課題で参加、水産庁長官賞を受賞した。

(3) 研究協議会の開催

漁業研究会の代表者を招集し、各グループの実践活動成果の交換発表、グループ活動連絡調整などの協議会を那珂湊市茨城県水試で4回、水戸市茨城県漁連で2回、日立市水木青年研修所で1回実施した。

2 水産技術交流

沿岸漁業研究グループが先進地の水産技術の導入とその交流をはかるため、次の視察を実施した。

(1) 34年9月28日～10月4日 新潟県相川、両津、能生、名立

習得技術 プリ底曳網釣、スケソウ延縄、八段掛網

参加グループ 大津、川尻、会瀬、大洗町

(2) 34年9月28日～10月4日 千葉県勝浦

習得技術 フカセ釣、曳網釣

参加グループ 平潟、多賀町、久慈町、平磯

3 漁業技術修練

(1) フカセ釣漁業講習会 35年2月12日～15日 大津、会瀬、平磯、大洗で実施

講師 千葉県勝浦市 和佐間秀雄

(2) 漁業気象関係講習会 35年3月1日～2日 平潟、大津で実施 講師 水戸地方気象台 舟田

予報官

(3) 魚群探知機取扱講習会 35年3月9日～10日 川尻、久慈で実施 講師 東海区水産研究所

田原技官

(4) 一本釣漁具漁法の改良講習会 35年3月15日～16日 大洗で実施 講師 神奈川県三浦市

山下精太郎

4 実践活動器材の購入並びに貸与

沿岸漁村における研究グループの研究活動に必要な器材を購入し、貸与要項を定め申請方式により貸与した。